

会 告

日本鉄鋼協会第78回(秋季)講演大会開催ご案内

会 員 各 位

日本鉄鋼協会会長 藤 本 一 郎

本会は来る 10 月 11 日(土)、12 日(日)、13日(月) の3日間広島工業大学において第 78 回講演大会を、10 月 14 日(火)、15 日(水)の両日、日本金属学会と合同で工場見学会を開催いたします。下記日程をご覧のうえ、多数会員ふるつてご参加下さるようご案内申し上げます。

記

日 程	10月11日 (土) 9:20	開会式、ヘンダーソン賞授与式、特別講演会
	13:00	学術講演会
	10月12日 (日) 9:00	学術講演会、討論会、婦人見学会
	13:00	学術講演会、討論会
	10月13日 (月) 9:00	学術講演会、討論会
	10月14日 (火) }	工場、研究所等見学会 (7コース)
	15日 (水) }	
会 場	学術講演会	広島工業大学 (広島県佐伯郡五日市町)
	懇 親 会	羽田別荘 (広島市舟入町 8~4)
(会場案内図は会告 N166~N167 ページに掲載されておりますのでご参照下さい)		
講演概要集	会誌『鉄と鋼』第 11 号(臨時増刊号)に掲載、全会員に配付いたします。	
見 学 会 }	全国各地からお集まりになられる会員各位には、唯一の交歓親睦の場として奮つてご参加下さい。また、婦人のための見学コースも予定いたしましたので、懇親会ならびに見学会に奮つてご参加下さるようご案内いたします。	
懇 親 会 }		

特 別 講 演 会 開 催 の お 知 ら せ (第 78 回講演大会)

第78回講演大会にあたり、特別講演会を開催し下記の方々にご講演願うことになりました。業界、学界の指導的立場にある最高権威者から直接講演を伺うことは、会員各位に裨益するところ大であると信じます。多数お誘い合せのうえご来聴下さるようご案内いたします。

記

1. 日 時	昭和44年10月11日(土) 9:20~12:00		
2. 会 場	広島工業大学 4 号館大講義室 (2 階)		
3. 講 師	(1) 70 年代経済をどうとらえるか	富士製鉄(株)社長	永野 重雄氏
	(2) 近世以前の製鉄遺址	岡山大学教授	和島 誠一氏

昭和44年度秋季講演大会実行委員

(50音順・敬称略)

顧問

阿部 茂 広島通商産業局局長
 佐藤 静一 広島大学工学部部長
 数納 勲郎 中国鉄鋼業協会会長
 鶴 襄 広島工業大学学長
 永野 巖 広島県知事
 藤原 武夫 広島大学名誉教授
 梅垣 嘉治 広島大学理学部部長
 山田 節男 広島市長
 飯島 宗一 広島大学学長
 辰本 英二 広島大学理学部教授

実行委員長

矢野 巖 東洋鋼板(株)下松工場長
 日本鉄鋼協会中国四国支部長

実行委員

秋園 幸一 徳島大学工学部教授
 有賀 慶司 東洋鋼板(株)下松工場研究所所長
 浅野 正敏 宇部興産(株)専務取締役
 浅野 檜一郎 愛媛大学工学部教授
 池田 正 八幡製鉄(株)光製鉄所所長
 岩宮 久 日新製鉄(株)周南製鋼所研究部長
 入谷 喜雄 日新製鋼(株)呉製鉄所研究部副長
 稲田 貞俊 徳島大学工学部教授
 今泉 八三郎 (株)神戸製鋼所長府北工場長
 漆山 信夫 八幡製鉄(株)光製鉄所技術部長
 宇都 善満 三菱重工業(株)広島研究所材料研究課長
 上田 四朗 宇部興産(株)宇部鉄工所所長
 宇野 端 三菱重工業(株)三原製作所所長
 上田 知作 (株)淀川製鋼所呉工場長
 天野 宗明 山陽技術振興会専務理事
 岡本 一生 八幡製鉄(株)光製鉄所技術部副長
 大森 正信 広島大学工学部助教授
 岡本 哲彦 広島大学教養部助教授
 奥原 次郎 寿工業(株)広島製作所社長
 大守 明 新居浜工業専門学校教授
 多幾山一敏 三菱重工業(株)広島造船所所長
 片島 三朗 広島大学工学部助教授
 加藤 正太 三菱重工業(株)広島造船所造機工作部
 次長
 加藤 道友 新居浜工業専門学校助教授
 蒲地 一義 山口大学工学部教授
 木戸 行男 宇部興産(株)中央研究所第5部長
 紀 隆雄 広島大学理学部助教授
 桐谷 道雄 広島大学理学部助手
 木村 素介 宇部興産(株)宇部鉄工所工務部副長
 木島 茂 住友化学工業(株)新居浜製造所研究部長
 北中 愛海 広島工業大学講師
 国本 陽治 (株)日本製鋼所広島製作所鍛造課長
 熊田 健三郎 愛媛大学工学部教授

桑原 改造 広島大学工学部教授
 久笠 敏 広島大学工学部講師
 桑江 和夫 (株)日立製作所笠戸工場長
 小藤 甫 新居浜工業専門学校校長
 小村 幸友 広島大学理学部教授
 後藤 道太 広島大学理学部講師
 小栗 堯 (株)日本製鋼所広島製作所所長
 末光 秀雄 日新製鋼(株)周南製鋼所所長
 近藤 明 愛媛大学工学部助教授
 作田 裕宣 川崎製鉄(株)水島製鉄所副工場長
 桜井 醇児 広島大学理学部講師
 斎藤 德行 広島工業大学工学部助教授
 下山田正俊 川崎製鉄(株)水島製鉄所工場長
 白松 爾郎 日本鋼管(株)福山製鉄所管理部長
 新持喜一郎 日立金属(株)安来工場冶金研究所所長
 神野 修一 中国製鋼業協会専務理事
 清水 賢三 住友機械工業(株)新居浜製造所所長
 清水 達次 山口大学工学部教授
 鈴木 鎮一 日立金属(株)安来工場製鋼部長
 武井 英雄 広島大学工学部教授
 田中 重芳 東洋工業(株)顧問
 田中 隆平 大和重工(株)社長
 田中 龍馬 住友化学工業(株)菊本製造所所長
 田中 琢磨 (株)神戸製鋼所呉工場長
 高島 章 (株)日本製鋼所広島製作所鑄造課主任
 筒井 蛙声 東洋工業(株)研究部長
 戸田 英夫 戸田工業(株)社長
 中村 信夫 日立金属(株)安来工場冶金研究所副長
 永東 忠寿 (株)米子製鋼所専務取締役
 橋岡 整郎 三菱重工業(株)三原製作所製造部副長
 花田 卓夫 中国工業(株)社長
 藤田 春彦 日新製鋼(株)呉製鉄所研究部長
 古元 隆生 東洋工業(株)材料試験課長
 藤原 浩 広島大学理学部助教授
 藤井 政夫 三井造船(株)玉野造船所試験課長
 藤原 晴夫 徳島大学工学部教授
 福永 秀春 広島大学工学部教授
 堀田 秀次 広島工業大学教授
 松田 恆次 東洋工業(株)社長
 丸山 益輝 広島大学工学部教授
 石田 節 広島県立呉工業試験場金属科長
 宮地 昭夫 東洋鋼板(株)下松工場技術係長
 水田 正史 (株)米子製鋼所研究部長
 溝口龍太郎 日立金属(株)安来工場長
 村尾時之助 東洋工業(株)専務取締役
 森山 知義 (株)淀川製鋼所呉工場メッキ課長
 森田 清 住友化学工業(株)菊本製造所鑄造課長
 山本 博 広島工業大学工学部教授
 山下 伸六 日本鋼管(株)福山製鉄所所長

ヘンダーソン賞新設について

本会はアメリカン・メタル・クライマックス社の一事業部門であるクライマックス・モリブデン社 (Climax Molybdenum Company) の創立 50 周年記念事業の一環として、同社より毎年 50 万円の寄贈を受けることになりました。

本会では同社の意向をもとに検討の結果、「特殊鋼に関する学術上、技術上最もすぐれたオリジナルな論文」を対象とするヘンダーソン賞を新たに設け、毎年秋季講演大会に授与することに理事会において決定いたしました。

本賞は同社において永年、鉱山探鉱開発に携わり多大の業績を残された元副社長故ヘンダーソン氏を記念して賞名といたしましたものであります。(同社最大のモリブデン鉱床には Henderson Mine と命名されている。)

本賞の第1回授与は10月の第78回講演大会の際に行なわれる予定です。

第6回溶鉄溶滓の物性に関するシンポジウム開催案内

日本鉄鋼協会、日本金属学会、日本学術振興会合同の鉄鋼基礎共同研究会溶鋼溶滓部会では10月11日～13日開催の日本鉄鋼協会秋季講演大会・日本金属学会秋季講演大会に引続き、下記により討論会を開催いたします。奮つてご参加下さるようご案内申し上げます。

		記	
日	時	昭和44年10月14日(火) 9:30~16:00	
場	所	広島工業大学	
講	演	(1) 9:30 輻射率の基礎について(仮題)	
		東大工	菅野 猛君
	(2) 10:50	光高度計による温度測定時に使用する光学計の透過率測定について	
		京大工	盛 利 貞君
		中部工大工	藤 田 清比古君
		富士名古屋	岩 崎 滋君
	(3) 13:00	溶融金属および鉄合金の有効放射率について	
		京大工	盛 利貞君・藤村侯夫君
	(4) 14:00	珪酸塩の赤外線吸収について	
		九大工	杉之原 幸夫君
	(5) 15:20~16:00	自由討論	
討論資料	予価 500円(鉄鋼協会秋季講演大会の会場受付、または当日の受付にて頒布いたします)		
連絡先	東京都千代田区大手町 1-5 経団連会館 日本鉄鋼協会技術部 (Tel. 03-279-6021)		

第6回西山記念技術講座開催のお知らせ

—— 鉄鋼業における計測と制御 ——

本会では下記により第6回西山記念技術講座を開催いたします。おさそいあわせのうえ、多数ご来聴下さいますようご案内申し上げます。

		記	
1. 期	日	昭和44年11月25日(火)、26日(水)	
2. 会	場	鉄鋼短期大学講堂 (尾崎市西昆陽 TEL(06) 421-7561)	
3. プログラム	第1日(11月25日(火) 9:30～15:30)		
	9:30 鉄鋼における最近の計測と制御	東京大学	磯 部 孝
	13:00 無人工場へのアプローチ(ロボットと人間)	大阪大学	藤 井 克 彦
	第2日(11月26日(水) 9:30～15:30)		
	9:30 非破壊検査の現状	住友金属工業	白 岩 俊 男
	13:00 鉄鋼業における秤量	日本鋼管	中 沢 尚 次
4. 聴講無料	事前の申し込みは不要です。		
5. テキスト代	1000円(2日分)(各講師の別刷は1部300円にて後日頒布いたします。)		

内
案
通
交

(広島市内会場)

○利用交通機関

会場への交通機関は国鉄山陽線を利用されるよりも
広電宮島線〔已斐(西広島)始発〕かバスを利用され
るのが便利です。

鐵
國

山陽線を利用される場合は、富島口駅で下車され、
 広電富島線にて楽々園へ行かれるのが便利です。

龜 弘

(1)国鉄広島駅下車の方は駅前でご乗込みの市内電車に乗り、終点で広島宮島行き電車に乗りかえ楽々園で下車して下さい。

(2)国鉄宮島口駅下車の方は駅前の広電宮島線西広島行電車に
乗車し、乗々園で下車して下さい。

船

四国方面から船便を利用される方は、宇品で下船し、已斐行電車に乗り、終点で宮島行電車に乗りかえ乗々園で下車して下さい。

25

広島市紙屋町「バスセンター」3番、4番乗場より宮島線または湯米線に乗りし、柴又園で下車して下さい。バスはひんぱんしておりますが、ラッシュ時は交通混雑のため所要時間には十分ご注意ください。なお柴又園からは会期中スクールバスが運行されますのでご利用下さい。

步骤

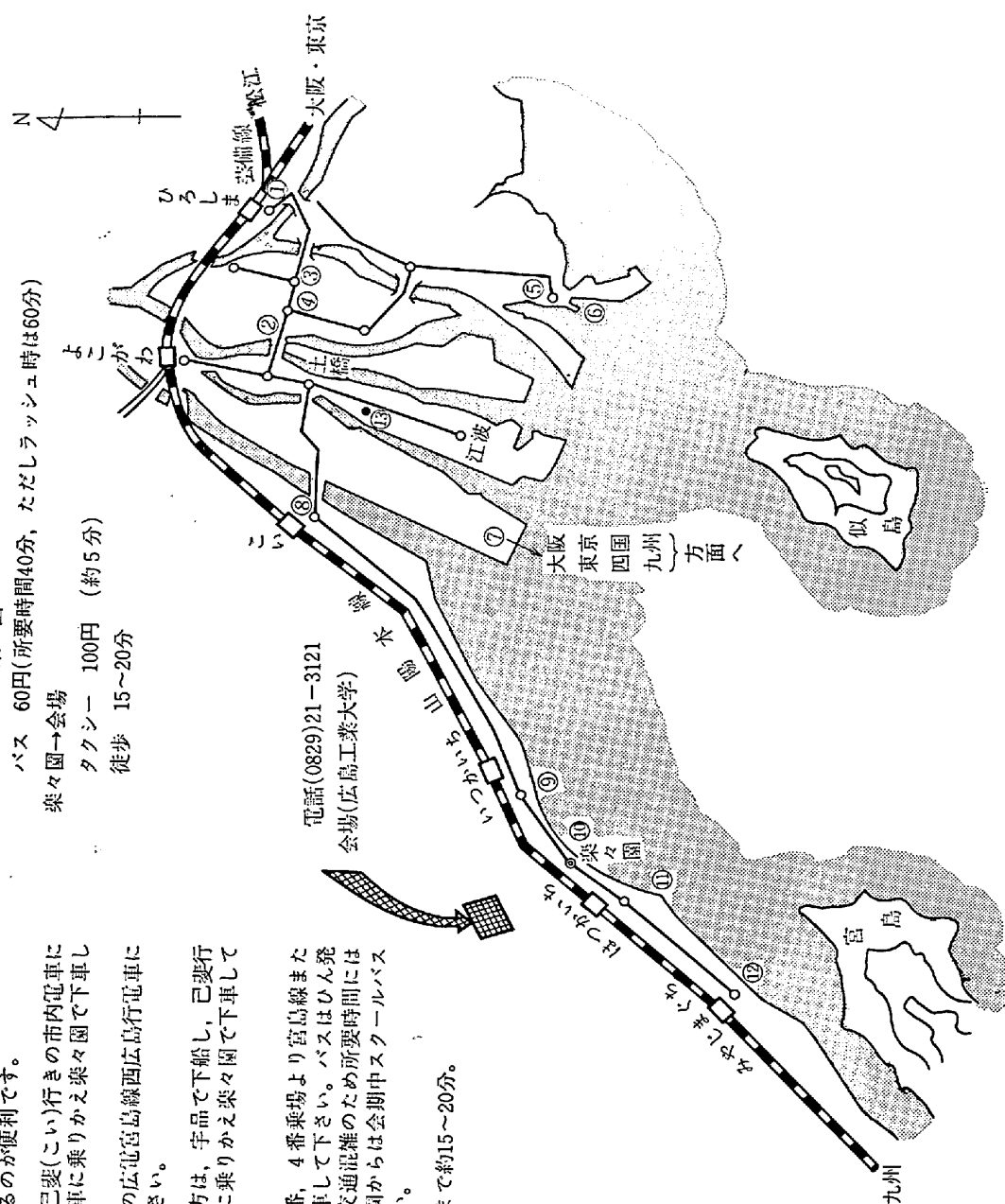
※ 各々 40 名程度から広島工業大学(会場)まで約 15~20 分。

说明

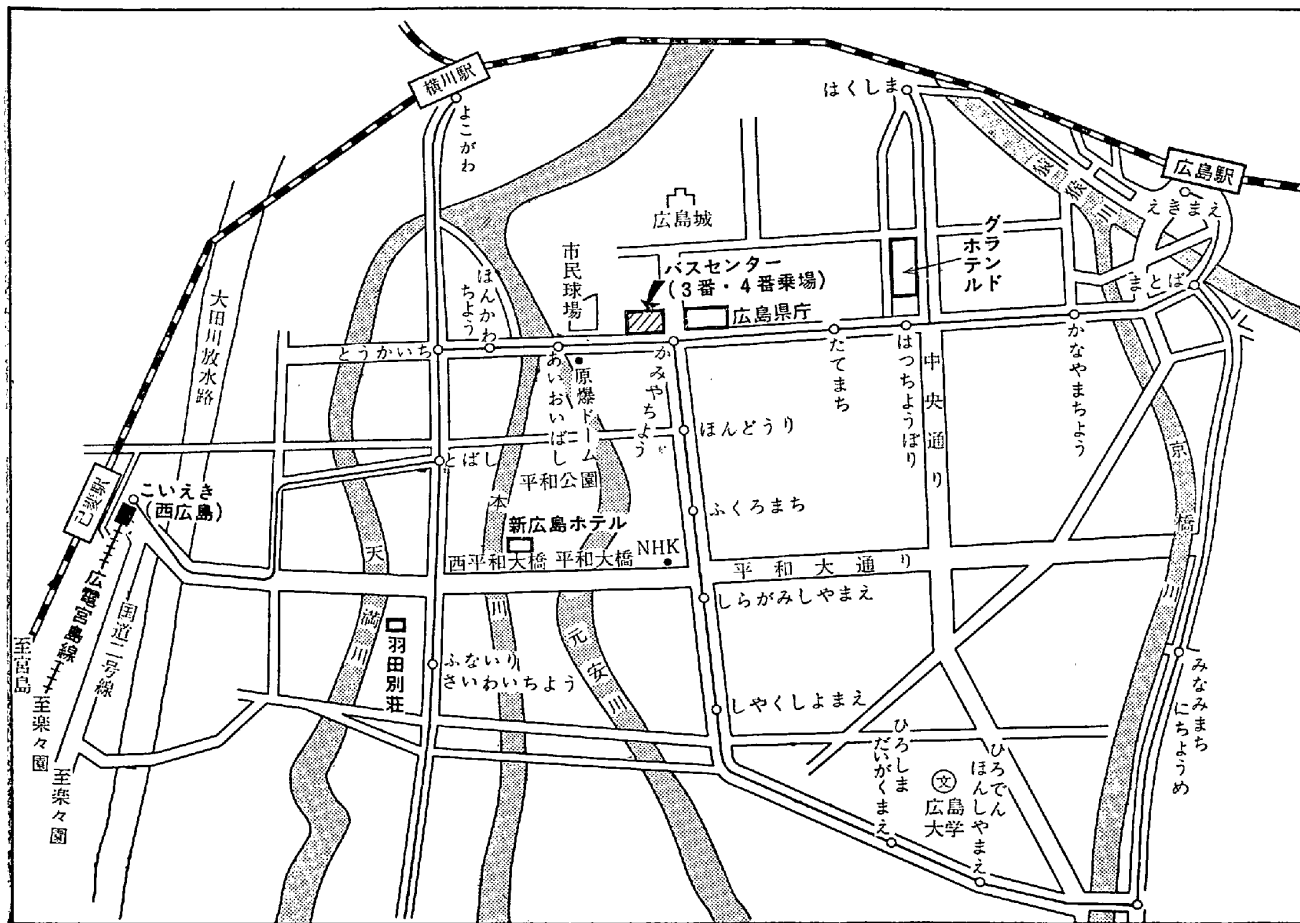
- | | |
|---|------------------------------|
| ① | 広島駅、交通公社(駅内) |
| ② | バスセンター(3番・4番乗場)
(紙屋町) |
| ③ | 八丁堀 |
| ④ | 交通公社(紙屋町営業所) |
| ⑤ | 宇品電車終点 |
| ⑥ | 広島港 |
| ⑦ | 広島空港 |
| ⑧ | 已斐(こい)…西広島)
市内電車終点(宮島線起点) |
| ⑨ | 宮島線電車 五日市(いつがいち) |
| ⑩ | " 柴又園(ちくらくえん) |
| ⑪ | " 廿日市(はつちがいち) |
| ⑫ | " 宮島口(みやじまぐち) |
| ⑬ | 懇親会会場 羽田別荘 |

鐵

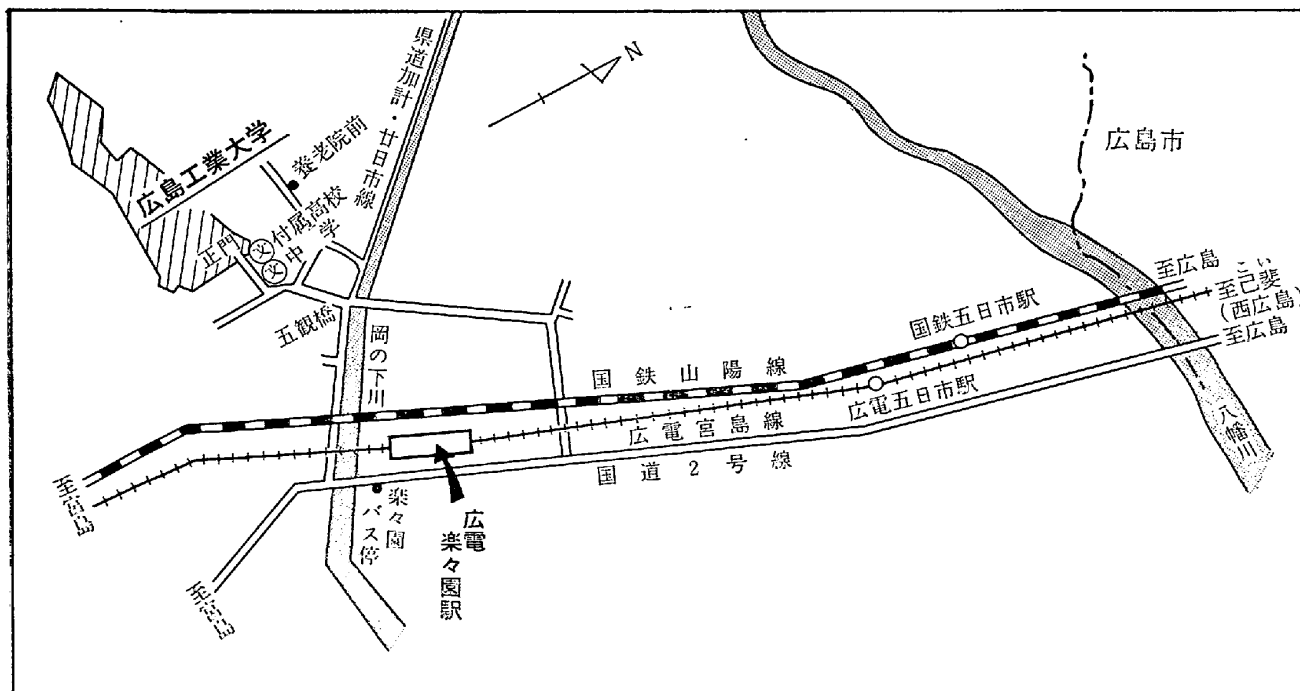
五車



広島市内略図



講演会場付近略図



日本鉄鋼協会東海支部 特別講演会開催のお知らせ

本会東海支部では下記により特別講演会を開催いたしますので、多数参加されるようご案内申し上げます。

記

- | | |
|--------|----------------------------------|
| 1. 日 時 | 昭和44年9月16日(火) 13:00～ |
| 2. 場 所 | 名古屋大学付属図書館3階視聴覚室
(名古屋市千種区不老町) |
| 3. 演 題 | 1. 原子炉燃料被覆材の現状と問題点 |
| 講 師 | 住友金属工業(株)中央技術研究所 工博 近 藤 豊氏 |
| | 2. 核燃料の最近の2, 3の問題 |
| | 原子力研究所東海研究所 理博 上 田 隆 三氏 |

第9回高温強度シンポジウム講演募集

- | | |
|--------------|--|
| 主 催 | 日本材料学会 |
| 協 賛 | 学振129委員会, 日本鉄鋼協会, 日本金属学会, 日本機械学会 |
| 開 催 日 | 昭和44年10月22日(水) |
| 場 所 | 京都教育文化センター(京都市左南区 京都大学附属病院内) |
| 申込締切 | 昭和44年9月10日 |
| 前刷原稿
提出締切 | 昭和44年9月30日 |
| 申込方法 | 適当な用紙に下記事項を記入のうえお申込下さい。
1) 第9回高温強度シンポジウム講演申込と表題
2) 演題
3) 講演概要
4) スライド使用の有無
5) 講演者(○印)および連名者の氏名, 所属機関, 連絡先
6) 高温強度特集号に投稿希望の有無 |
| 申 込 先 | 日本材料学会シンポジウム係宛
(京都市左京区吉田泉殿町1の101 Tel. 761-5323) |
| 前刷原稿 | 前刷はオフセット印刷とし, 講演者にお送りする。
指定原稿用紙10枚以内(図表・写真を含めて約14400字)に明りように墨書し, なるべく
余白をさけること。 |

— 技術講座テープ貸出について —

本会での技術講座講演をテープにおさめ第11回技術講座より貸出しておりますので広くご利用下さいますようご案内いたします。

1. 講演テーマ

技術講座

- | | |
|------|-----------------|
| 第11回 | 鋼の高温強度特性 |
| 第12回 | 鉄鋼業における電子計算機の応用 |
| 第13回 | 鋼の強靱性 |

西山記念技術講座

- | | |
|-----|----------|
| 第1回 | 鉄鋼製錬の基礎 |
| 第2回 | 溶鉄・溶滓の物性 |
| 第3回 | 金属材料の疲労 |
| 第4回 | 鉄鋼の凝固現象 |

2. 貸出期間

1回につき1週間以内とする

3. 貸出料金

無料(送料実費)

4. 申 込 先

社団法人 日本鉄鋼協会 編集課
100 東京都千代田区大手町1-5 経団連会館3階 電話 (03) 279-6021

「鋼の熱処理 改訂5版」刊行のお知らせ

日本鉄鋼協会編 委員長 佐藤 忠雄
B5判 約740ページ 箱入上製
定価 6000円 9月下旬刊行予定

予てより、本会で編集を進めていました「鋼の熱処理 改訂5版」が、9月下旬を期して丸善株式会社より刊行されることになりました。発刊に先立ち、本書の概要をここに紹介するとともに、ご購入に際して下記のような特価を設け、会員各位への便宜を計っております。この機会に是非お求めになるようおすすめします。

本書の概要

本会は、昭和26年にはじめて「鋼の熱処理と作業標準」と題して、本書の初版を刊行、以来、特殊鋼の需要の急増、熱処理技術とその理論の伸展に即応し、これまでに4度の改訂を重ね今日に及んでいる。今回の改訂に際しては、佐藤忠雄編集委員長を初めとする、各方面の権威に編集、執筆を依頼「鋼の熱処理」に関する理論と技術の全般にわたり、最近の進歩発展をあまねく集録するよう企図した。旧版に比較し、単に基礎と作業標準の解説にとどまることなく、その基礎理論について高度の内容を講述し、また各論においては鋼種別の熱処理技術を豊富なデータに基いて解析し説明を加えるとともに、熱処理設備、熱処理部品の設計法などに至る一連の体系的な熱処理技術に関する解説を充実させている。総体的に、理論と技術の関連に最重点をおき、ただちに現場に応用できるよう配慮された編集は本書の一大特色である。（詳細な内容が広告前付37頁に記載されています）

会員特価要項

会員特価 5000円（定価5000円）（送料本会負担）

申込方法 下記申込用紙に必要事項をご記入のうえ、代金を添え現金書留にてお申し込み下さい。

配本 9月末日頃までに申し込まれば、優先的に配本いたします。

申込先 100 東京都千代田区大手町1-5 経団連会館3階

日本鉄鋼協会

- 注意事項
1. 会員特価は一般書店では扱っておりませんから、必ず本会へお申し込み下さい。
 2. 多数の注文が予想され、一時品切れとなる場合も考えられるのでなるべく早めにお申し込み下さい。

.....切.....取.....り.....線.....

「鋼の熱処理 改訂5版」申込書

昭和 年 月 日

氏 名			会 員
勤 務 先	Tel ()		
送 本 先	郵便番号 _____		
送 金 題	会員特価 5000 円 × 冊 計 円 定 価 6000 円		

*この注文書は日本鉄鋼協会宛申込に限り有効です。

この申込書は現金書留にて送金のさい同封して下さい。

— 特 別 報 告 書 —

「鋼の真空溶解および真空脱ガス法の進歩」刊行のお知らせ

日本鉄鋼協会共同研究会特殊鋼部会報告

「鋼の真空脱ガスと真空溶解」については、鉄鋼技術共同研究会新技術開発部会真空冶金分科会の報告が、昭和38年、40年の二度にわたり会誌「鉄と鋼」に掲載されましたが、その後における真空冶金の発展はめざましく、今日各製鉄工場において広く実施されております。

共同研究会特殊鋼部会では「鉄鋼および特殊鋼の真空溶解ならびに脱ガス処理」を共通のテーマにとりあげ共同研究を続けてまいりました。

今回、関係各社より研究成果が提出された段階で、現時点における hot deta をとりまとめ、整理し標記報告書の編集を企画いたしました。

本書の内容は別記の通りですが、鋼の真空処理法に関する総合的なとりまとめを行ない、過去の足跡をふりかえり現状を把握するとともに、将来の展望を明らかにすることは、今後の発展にきわめて有意義なことと思われます。今後の技術向上のために、あるいは専門知識修得のために貴重な座右の書としてご利用いただけるものと信じます。

本書は8月下旬限定版として刊行いたしますので、購読ご希望の方は下記要領によりお申し込み下さるようご案内いたします。

記

1. 書 名 鋼の真空溶解および真空脱ガス法の進歩 (B5版 約280ページ上製本)
2. 刊 行 昭和44年8月下旬 (送本は9月上旬になる予定)
3. 価 格 会員 1900円 非会員 2500円 (送料不要)
4. 申込方法 書名、所要部数、送り先、氏名を記し代金を添え現金書留にてお申し込み下さい。
5. 申 込 先 東京都千代田区大手町 1-5 経団連会館 3階
日本鉄鋼協会 編集課 (〒100)

目 次

- | | | |
|------------------------|--------------------------|-----------------------|
| 1. 序 言 | 4. 2. 3 真空脱酸 | 4. 7. 6 今後の方向 |
| 2. 発展の歴史と現況 | 4. 2. 4 耐火物・非金属介在物との反応 | 4. 8 RH真空脱ガス法 |
| 2. 1 真空溶解法の発展 | 4. 2. 5 溶質元素の蒸発現象 | 4. 8. 1 概 説 |
| 2. 1. 1 真空誘導溶解法 | 4. 3 真空排気装置 | 4. 8. 2 理 論 |
| 2. 1. 2 消耗電極式真空アーク溶解法 | 4. 3. 1 メカニカルブースター | 4. 8. 3 設 備 |
| 2. 2 真空脱ガス法の発展 | 4. 3. 2 スチームエジェクター | 4. 8. 4 操 業 |
| 3. 真空溶解法 | 4. 4 流滴脱ガス法 | 4. 8. 5 脱ガス処理の効果 |
| 3. 1 真空誘導溶解法 | 4. 4. 1 概 説 | 4. 8. 6 炉内脱酸反応について |
| 3. 1. 1 概 説 | 4. 4. 2 主な操業例 | 4. 8. 7 今後の方向 |
| 3. 1. 2 真空誘導溶解における精錬反応 | 4. 4. 3 流滴脱ガスの効果 | 4. 9 その他の脱ガス法 |
| 3. 1. 3 設 備 | 4. 4. 4 流滴脱ガスに対する2, 3の検討 | 4. 9. 1 ASEA-SKF法 |
| 3. 1. 4 操業方法 | 4. 5 出鋼脱ガス法 | 4. 9. 2 誘導攪拌取鍋脱ガス法 |
| 3. 1. 5 品質におよぼす効果 | 4. 5. 1 概 説 | 4. 9. 3 Gero 真空脱ガス法 |
| 3. 1. 6 今後の発展 | 4. 5. 2 主な操業例 | 4. 9. 4 鋳型脱ガス法 |
| 3. 2 消耗電極式真空アーク溶解法 | 4. 5. 3 出鋼脱ガス法の効果 | 4. 9. 5 溶鋼加熱保温流滴取鍋ガス法 |
| 3. 2. 1 概 説 | 4. 6 取鍋脱ガス法 | 4. 9. 6 その他の方法 |
| 3. 2. 2 理 論 | 4. 6. 1 概 説 | 4. 10 今後の発展 |
| 3. 2. 3 設 備 | 4. 6. 2 設 備 | 5. 国内設備などアンケート調査一覧表 |
| 3. 2. 4 操業方法 | 4. 6. 3 操 業 | 5. 1 真空誘導溶解設備 |
| 3. 2. 5 適用鋼種 | 4. 6. 4 品質におよぼす脱ガス効果 | 5. 2 消耗電極式真空アーク溶解設備 |
| 3. 2. 6 品質におよぼす効果 | 4. 6. 5 今後の問題点 | 5. 3 真空脱ガス設備 |
| 3. 2. 7 今後の発展 | 4. 7 DH真空脱ガス法 | 6. 文献集 |
| 4. 真空脱ガス法 | 4. 7. 1 概 説 | 6. 1 特殊鋼部会提出資料 |
| 4. 1 概 説 | 4. 7. 2 理 論 | 6. 2 製鋼部会提出資料 |
| 4. 2 理 論 | 4. 7. 3 設 備 | 6. 3 内外文献集録 (1964年以降) |
| 4. 2. 1 脱水素 | 4. 7. 4 操 業 | |
| 4. 2. 2 脱窒素 | 4. 7. 5 品質におよぼす効果 | |

—鋼材マニュアルシリーズ1—

「厚板マニュアル」の刊行のお知らせ

本会では鋼材のマニュアルシリーズの出版を企画し作業を進めておりますが、その第1冊日本鉄鋼協会共同研究会鋼板部会厚板分科会編鋼材マニュアルシリーズ1「厚板マニュアル」が発行の運びとなりました。

わが国鉄鋼業の発展は目ざましく、これに伴い厚板も造船用のみならず、橋梁、タンク、圧力容器などその用途もきわめて広範囲に広がると共に、その使用量も増加し、産業の発展に欠くべからざるものとなってきました。このような時期に当たり厚板の製造に従事する方をはじめとし、販売にたずさわる方、またファブリケーターならびにオーナーの方々など広く厚板を取扱われている関係者に厚板というものをよく知っていただき、その本来の機能を十分に果たすための手引書を目的に本書は編集されております。過去成品全般についてまとめたマニュアルはなく、貴重な資料として購読をお勧めいたします。購読ご希望の方は下記によりお申し込み下さるようご案内申し上げます。

なお鋼材マニュアルシリーズ2「鋼管マニュアル」(9月頃発行予定)の刊行準備をすすめております。

記

書名	鋼材マニュアルシリーズ1「厚板マニュアル」(B5判, 118ページ)
価格	会員 500 円 非会員 800 円 (送料不要)
申込方法	所要部数, 送り先, 氏名を記し, 代金を添え現金書留にてお申し下さい。
申込先	100 東京都千代田区大手町 1-5 経団連会館3階 日本鉄鋼協会編集課

目次

I 緒論	的……………	4. 9. 2 溶接性試験……………
1. 1 厚板とは……………	3. 9. 2 ショットブラストの型式および種類……………	4. 9. 3 溶接部の欠陥……………
1. 2 厚板の用途……………	3. 9. 3 ショットブラストの鋼板におよぼす影響……………	4. 10 加工性……………
II 製鋼冶金上の問題	3. 9. 4 塗装の必要性和塗料……………	4. 10. 1 熱間加工性……………
2. 1 鋼塊の製造……………	3. 10 検査……………	4. 10. 2 冷間加工性……………
2. 1. 1 製鋼炉……………	3. 11 出荷……………	4. 10. 3 切削性……………
2. 1. 2 造塊……………	IV 厚板の品質水準およびその管理	4. 11 鋼の高温および低温における特性……………
2. 2 鋼種……………	4. 1 幅, 長さについて……………	4. 11. 1 高温における特性……………
2. 3 化学成分……………	4. 2 厚みについて……………	4. 11. 2 低温における特性……………
2. 4 真空鑄造法……………	4. 2. 1 プレートクラウン……………	4. 12 耐食性, 耐摩耗性, 耐疲労性……………
2. 5 連続鑄造法……………	4. 2. 2 厚さ許容差……………	4. 12. 1 耐食性……………
III 製造工程および設備	4. 3 横曲がり(キャンバー)……………	4. 12. 2 耐摩耗性……………
3. 1 厚板の製造工程および厚板工場の概略……………	4. 4 直角度……………	4. 12. 3 耐疲労性……………
3. 2 素材……………	4. 5 平坦度……………	V 厚板の選別
3. 2. 1 材料の種類……………	4. 5. 1 圧延工程……………	5. 1 機械的性質……………
3. 2. 2 素材の設計……………	4. 5. 2 剪断工程……………	5. 2 寿命……………
3. 2. 3 材料の品質管理……………	4. 5. 3 その他……………	5. 3 使用雰囲気……………
3. 3 加熱……………	4. 6 表面欠陥……………	5. 4 重量……………
3. 3. 1 加熱炉の型式……………	4. 7 内部欠陥……………	5. 5 経路性……………
3. 3. 2 加熱炉の操業……………	4. 7. 1 未圧着欠陥……………	VI 厚板の規格と試験
3. 4 圧延……………	4. 7. 2 内部割れ……………	6. 1 厚板の規格……………
3. 4. 1 圧延作業の重要性……………	4. 7. 3 砂きずおよび非金属介在物……………	6. 2 試験方法……………
3. 4. 2 圧延機形式と主仕様……………	4. 8 機械的性質……………	VII 取引方法および取引の場合の注意事項
3. 4. 3 圧延作業……………	4. 8. 1 引張り……………	7. 1 国内取引……………
3. 5 矯正作業……………	4. 8. 2 曲げ……………	7. 1. 1 厚板の一般的取引方式……………
3. 6 採寸, 剪断……………	4. 8. 3 衝撃値……………	7. 1. 2 取引上の注意事項……………
3. 7 表示……………	4. 8. 4 機械的性質の実績……………	7. 2 輸出取引……………
3. 8 熱処理……………	4. 9 鋼板の溶接性……………	7. 2. 1 一般的取引方式……………
3. 8. 1 焼入れ+焼もどし材の特徴……………	4. 9. 1 炭素鋼および低合金鋼の溶接性……………	7. 2. 2 受注時の留意事項……………
3. 8. 2 焼ならし材の特徴……………		VIII 用語の解説と統計資料
3. 9 ショットブラスト……………		
3. 9. 1 ショットブラストの目		

— 特別報告書 —

『日ソ製鋼物理化学シンポジウム論文集(1967年度)』刊行のお知らせ

昭和 42 年 5 月本会が派遣した訪ソ学術使節団の報告書「日ソ製鋼物理化学シンポジウム論文集・1967年度」がこのたび刊行の運びとなりました。

この書は的場幸雄氏(富士鉄中研所長)を団長とする松下幸雄(東大教授), 盛利貞(京大教授), 不破祐(東北大学教授), 瀬川清(八幡), 山崎恒友(富士), 中川義隆(日鋼)の各団員および A. M. SAMARIN 氏を中心としたソ連側からのシンポジウム提出論文(22件)を中心に, 研究所, 大学の見学記, ならびに各団員のソ連における感想をまとめたものであります。購読ご希望の方は下記によりお申し込み下さい。

書 名 「日ソ製鋼物理化学シンポジウム論文集(1967年度)」 211 ページ B 5 判 上製本
 価 格 会員 1900 円, 非会員 2500 円(送料不要)
 申込方法 所要部数, 送り先, 氏名を記し, 代金を添え現金書留にてお申し込み下さい。
 申 込 先 東京都千代田区大手町 1-5 経団連会館 3 階 日本鉄鋼協会 編集課(〒番号 100)

論文題目

- (1) 鉄鉱石のガス還元における速度論と機構
- (2) 酸化鉄還元における酸素分圧の連続測定
- (3) 金属酸化物固溶体の還元に関する熱力学
- (4) ペレットの還元膨脹 (swelling)
- (5) ロッキング炉による溶鉄の脱硫に関する研究
- (6) 酸素および Fe_2O_3 による溶鋼の脱炭反応
- (7) 溶融塩および金属融液の熱力学と構造
- (8) 溶融 CaO-SiO_2 , $\text{CaO-SiO}_2\text{-Al}_2\text{O}_3$, $\text{CaO-SiO}_2\text{-TiO}_2$, $\text{CaO-SiO}_2\text{-FeO}$ 系の 1550°C における水蒸気溶解度
- (9) 溶融酸化物の半導体について
- (10) 浮揚溶解による脱酸剤の酸化に関する研究
- (11) アーク溶接時の脱酸反応
- (12) 溶融鉄および溶融 18Cr-8Ni-Fe 合金の Ti 脱酸
- (13) ニッケルおよびニッケル・クロム融体の脱酸
- (14) 溶融金属の諸性質と構造
- (15) 溶鉄の粘性について
- (16) 金属融体の電子構造
- (17) 溶鉄の短範囲規則性構造と溶鉄への窒素の溶解度
- (18) 溶融合金の微視的不均一性と鋼脱酸の問題
- (19) 鉄炭化物溶融合金の熱力学に関する 2, 3 の問題
- (20) 希薄溶体の成分の活量を計算する方法
- (21) 溶液の微視的不均一性
- (22) 珪素鋼板の脱炭について

S. T. ROSTOVTSEV

松下幸雄, ほか

A. N. MEN, ほか

不破 祐

松下幸雄

不破 祐, ほか

I. T. SRYVALIN

不破 祐, ほか

E. A. PASTUKHOV, ほか

盛 利貞

瀬川 清

〃

V. V. AVERIN

A. SAMARIN

中川義隆

V. V. GRIGOROVICH

A. SAMARIN

A. A. VERTMAN

L. A. SHVARTSMAN

I. S. KULIKOW

N. N. SIROTA

山崎恒友

— 特別報告書 —

『わが国における最近の分塊技術の進歩』刊行のお知らせ

日本鉄鋼協会共同研究会鋼板部会分塊分科会報告

弊会では日本鉄鋼協会共同研究会鋼板部会分塊分科会報告書「わが国における最近の分塊技術の進歩」を 8 月発行いたしました。

ご承知のとおり, 分塊工場の機能は, 一貫鉄鋼製造工程において, 製鋼工場と成品圧延工場に位し, 工程管理的には, 両者間の緩衝作用をなし, また品質的には成品圧延で要求される諸条件を備えた材料を供給するという, きわめて重要, かつ不可欠のものであります。

本書は, 分塊における最近の技術, 進歩を主体に編集したもので, わが国分塊技術の現状を総合的に把握し, 将来の技術向上, 専門知識の修得, また社内教育のためにも貴重な資料であります。購読ご希望の方は下記によりお申し込み下さい。なお, 本書は限定版でございますので早目にお申し込み下さいますようお願いいたします。

書 名 「わが国における最近の分塊技術の進歩」(B 5 版 272 ページ 上製本)
 価 格 会 員 1900 円 非会員 : 2400 円(送料不要)
 申込方法 所要部数, 送り先, 氏名を記し, 代金を添え現金書留にてお申し込み下さい。
 申 込 先 東京都千代田区大手町 1-5 経団連会館 3 階
 日本鉄鋼協会 編集課(〒番号 100)